

特集

目白ものがたり



目白駅



のぞき坂



武芳稲荷堂 (鬼子母神境内)



『小説天気の子』

新海誠著、KADOKAWA

大学図・開架 Bunko/Sh64

目白といえば「古き良き名作」のイメージですが、話題になった映画でも印象的な場面で出てきています。目白を主人公達と一緒に大冒険してみるにはうってつけの1冊。

☀️上の「のぞき坂」からのショットは映画の1シーンになっています。次ページの地図も参照。

『小春日和』

金井美恵子著、河出書房

目白4部作といわれる中の1冊。目白に住む小説家の叔母のところへ居候する女子大学生の日常が描かれます。彼女にとっては、目白は日々の暮らしの場。

目白ものがたり

学習院大学のある目白は閑静な住宅街ですが、さまざまな文学作品に描かれてもいます。目白～雑司が谷にかけて、また学習院について、触れられている作品を集めてみました。時代も描かれ方もさまざま、いろいろな目白が感じられるはずです。みなさんにとって目白は、どんな街ですか？



目白で事件発生!?

ミステリの舞台としても描かれる目白。目白～池袋にかけてのエリアは昔からの住宅も残る、入り組んだ道が特徴。ほんとうは、のんびり静かな街並みです。

『虚無への供物』『中井英夫作品集』所収 中井英夫著、三一書房

大学図・書庫 913.7/170

目白の「氷沼邸」で殺人事件発生！「探偵小説の三大奇書」と呼ばれる本作、登場人物誰もが探偵役を買って出て、ミステリのお約束がごとごとく覆されます。

『妖の華』 誉田哲也著、文藝春秋

大学図・書庫 Bunko/H84

目白警察署の裏手で猟奇事件が！時空を超えたミステリ。

『株価暴落』 池井戸潤著、文藝春秋

目白で爆発事件が起きたことからスタートする、銀行融資に絡むミステリ。



鬼子母神堂



夏目漱石のお墓



雑司ヶ谷霊園



『このころ』 夏目漱石著、岩波書店

大学図・書庫 081.2/33C/39a 他あり

「先生」がお墓参りに通う場所。誰のお墓があるのでしょうか…。実際に、雑司ヶ谷霊園には夏目漱石のほか、永井荷風や小泉八雲など著名人のお墓もあります。

※「雑司ヶ谷霊園」「雑司が谷（地名）」はいずれも正式名称の表記としています

目白通り

目白駅

至高田馬場



東別館



血洗いの池

学習院大学

『春の雪』 三島由紀夫著、新潮社

大学図・開架 Bunko/Mi53/1 他あり

現在の東別館や血洗いの池が登場します。「豊穡の海」4部作の出発点、主人公松枝清頭の学習院高等科時代の様子が描かれます。

『悪女について』 有吉佐和子著、新潮社

大学図・書庫 Bunko/A78

キャンパスは登場しませんが、昭和初期の「学習院」のイメージが皮肉たっぷりに(!)描かれています。

『東京文学の散歩道』 中谷治夫著、講談社

大学図・開架 910.26/634

学習院大学構内に、馬場・厩舎があることは知っていますか？筆者と一緒に散歩しているような感覚で、馬場やあちこちを巡ります。

鬼子母神堂、雑司が谷

『鬼平犯科帳』『完本 池波正太郎大成』所収

池波正太郎著、講談社

女子大図・書庫 918.68/191/4-7

主人公・長谷川平蔵の屋敷が目白台にありました。「むかしの男(4巻)」 「隠居金七百両(7巻)」では江戸時代の雑司が谷の様子が描かれています。少し田舎の匂いもする、のんびりした様子は今と変わらないかも。

『さらば雑司ヶ谷』 樋口毅宏著、新潮社

大学図・書庫 Bunko/H56/1

現代が舞台ですが、こちらはパラレルワールド。「裏の雑司が谷」を主人公とともに疾走してみましょう。

『吉祥寺だけが住みたい街ですか？(1巻)』

マキヒロ子著、講談社

等身大の雑司が谷を感じるならこのマンガ。下町風情残る、レトロな雰囲気の中におしゃれなカフェなどが点在。住むにはびったり？



映画「天気の子」聖地巡礼

映画の中で、このポイントから見た目白の街並みが映っています。ぜひ見つけてみてください！

大学図書館での新型コロナウイルス感染症の予防対策について

大学図書館では、皆さんに安心して図書館を利用いただけるよう、次のような予防対策を行っています。11月1日現在、各図書館の来館利用は、入構が許可された方のみとなっております。来館利用及び各種サービスについては、大学の方針に従い対応しており、変更がある場合には G-Port 等でお知らせします。



- 館内各所（入口、OPAC 端末付近等）に手指消毒用のアルコールの設置
 - 閲覧席の席数制限、飛沫防止パーテーション設置
 - カウンターの飛沫防止パーテーション設置
 - 定期的な換気（通常の空調運転とあわせて行っています）
- ※共用設備の一部利用停止（館内備付パソコン、グループラーニング室、3階閲覧室）

なお、非来館型のサービスは今後も継続しますので、あわせてご利用ください（サービスの詳細は G-Port にてお知らせしています）。

このように、さまざまな対策を実施してはおりますが、利用者の皆さんのご協力が不可欠です。引き続き、マスク着用の励行や利用者同士の距離を一定程度保っていただく、自動貸出機の利用等のお願い、何より、体調の悪いときはご利用を控えていただくなど、「ウィズコロナ」の「新しい生活」にご理解・ご協力ください。



受け継がれる本棚

学生センター学生課
佐藤 堇 さん

私にとっての思い出の「本棚」は実家の物置部屋にある背の高い、5段ほどの大きな本棚です。母が読書家であり、家には沢山の本がありました。しかし小さい頃は、その中でも、小説ではなく昭和の少女漫画（山岸涼子や一条ゆかりなど）ばかり手に取って読んでいました。

そういった訳で私の読書遍歴はたいしたものではないのですが、読書を好きになるきっかけとなったのが、どういいうわけか、子供の頃は興味を示さなかった「実家の本棚」なのです。大人になって実家に帰省をしたとき、ふとその本棚から手に取った本が澁澤龍彦の『ヨーロッパの乳房』（大学図・書庫、910.81/165/5、TN00747606X）でした。マニアックかつ妖しい



佐藤さんご本人と愛読書

ヨーロッパの偶像や庭園などを紹介しているこの旅行エッセイに、本を読む高揚感を強く感じたのを覚えています。澁澤龍彦の本はどれも古今東西に渡る博識ぶりが発揮されていて面白いのですが、特にお気に入りなのは自分の在り方を考えさせてくれる『快樂主義の哲学』（大学図・書庫、910.81/268/6、TN006364411）です。

昨今は電子書籍が流行していますが、紙媒体の本を並べた自分だけの本棚を作っておくと、私の母のように、将来その本棚が子供や誰かに影響を与えることもあるかもしれません。そういった意味で、大学図書館は新たな発見や自分の興味を広げられるみんなの「本棚」ですから、沢山足を運んでみてはいかがでしょうか。



現在のご自宅の本棚

来ぶらり No.113 2020年 11月1日

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

発行責任者：鈴木亘教授 編集委員：藤本智美・遠山有紀

1階貸出・返却カウンター（内線 2397）：☎ 03-5992-1009（直通） 2階レファレンスカウンター（内線2395・2396）：☎ 03-5992-9249（直通）

「来ぶらり」のバックナンバーは（<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/about/publication.html>）で公開しています。

ISSN 2186-6724